



獣医師と巡り会う

-1-

首都圏の不妊・去勢キャンペーン協力動物病院

飼い主のいないねこへの保護・手術・返還のTNRプログラムや地域ねこプランに、獣医師さんは密接に関係します。(地域ねこ計画や、TNRプログラムは、項目別途)

数十年もかけて、動物病院とのネットワーク作りに努めながら、動物愛護の活動を続けているボランティア組織があります。首都圏で獣医師さんとの巡り会いを求める方は、下記のエンドレステープ案内に問い合わせができます。

不幸な犬猫をなくすネットワーク 本部/東京 支部/埼玉・千葉
首都圏対象地域/東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城の一部

飼育を放棄される犬や猫を増やさないために、趣旨に賛同する獣医師さんの協力を得て、不妊・去勢キャンペーンを奉仕的な費用で毎年実施しています。キャンペーンの実施期間内に限らず、お問い合わせをエンドレステープの電話案内で受け付け、協力獣医師と巡り会える機会をもうけています。

TEL.03-5686-2612 (実施期間中は申し込み方法をお知らせしています。)

キャンペーン実施地域などの内容や、協力動物病院は実施年度により異なることがあります。平成16年初頭迄のキャンペーン期間の対象者は、手術料金にお困りの方で、東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城(一部地域)のキャンペーン協力病院に動物を連れて行ける方。同期間中の応募方法は、(1)猫か犬の区別(2)オスカメス(3)頭数(4)お申込者のご住所、お名前、電話番号などを明記し、(5)90円切手を貼った返信封筒を同封して郵送する方法です。手術料金・猫メス10,000円/オス5,000円、犬メス18,000円/オス10,000円、犬15kg以上と猫犬とも妊娠中は料金加算・手術料の消費税別途・1頭につき運営費500円別途 本部宛先/〒121-8799東京都足立北郵便局留「不幸な犬猫をなくすネットワーク」

社会貢献に積極的な獣医師と巡り会う

社会貢献活動とされる動物愛護の普及啓発や行動には、さまざまな立場やスタイルがあります。

動物の命や健康を任せられる開業獣医師さんといえども、事業主としての責任を合せて持っています。顧客への獣医療サービスと、社会貢献のバランスにも配慮されます。

例えば地域行政では、獣医師の業界組織(主に地域の獣医師会)などと、狂犬病予防注射などについて、古くから緊密な関係を保っています。

しかし、ねこの保護・手術・返還(TNR)プログラムや、地域ねこプランをすすめるときに、すべての開業医師に協力を求めることは一般的ではありませんし、行政が事業主の開業医を紹介するのも不自然といわれます。

一部の自治体等では、繁殖制限手術費用助

成などの形で、獣医師の社会貢献活動を後押ししている場合もあります。

社会的な使命を求められながらも、事業主の側面も合わせ持つ獣医師さんですから、社会貢献だけを強いることは一般的でもありません。社会貢献に積極的な獣医師との巡り会いに困る場合も多いものです。

人を頼って病院の紹介を求める方法を思う方々も少なくありませんが、それが最善ともいえません。

患者本人と直接の関係を持つ人間の医師と大きく異なり、さまざまな事情の動物たちの健康と合わせて、動物たちを通院させる顧客との関係や、顧客の希望も獣医療には大きく影響します。

病院と個々の通院顧客との信頼関係が、そ





社会貢献に積極的な獣医師と巡り会う -2-

のままどなたにも当てはまるとも限りませんし、さまざまな事情の動物に適切な獣医療であるのかも分かりません。

動物の販売を事業にするペットショップなどと密接な事業上の関係を持つ動物病院もあるようです。

通院する顧客と動物病院の信頼関係に加えて、顧客が治療を求める動物に対する適切な医療行為などの信頼性の関係は千差万別で、判断の基準を見つけることも困難です。

獣医師の社会貢献を後押しするために、自治体等で行う不妊・去勢手術費用の助成制度にもさまざまな形態があります。

多くの場合、獣医師の事業者組織（主に地域の獣医師会）に加盟している病院を利用する顧客に関して、病院で規定している獣医療定価から、決められた助成額との差額分を顧客が病院に支払い、助成額相当分を行政などより病院事業者に補填されるという仕組みが多いです。

他には、行政が決めた助成金額を通院顧客に何らかの方法で支払い、顧客が通院した病院定価額の一部を、顧客に直接還元する方法もあるようです。

いずれも、通院する顧客が自治体や、そのほかに規定された組織などへ前もって申請し、通院時に病院などと経費の相殺をする仕組みが多いようです。

全国ではさまざまな方法で、不妊・去勢手術費用の助成を行っている場合がありますので、地域の行政窓口にお問い合わせできます。（愛護動物主務所管は、項目別途）

極めて少ない例は、行政の獣医資格を持つ職員が治療や手術を行うケース。獣医事業者組織などが社会貢献を実行するために、獣医大学や行政などと連携して不妊・去勢手術費用の一部の無償化を試みるケースなどです。

いずれの場合にもねこの保護や返還後のケアの作業は、市民有志やボランティア組織などの奉仕活動になります。

行政が動物病院を直接紹介しないまでも、地域ねこプランやTNRプログラムをバックアップしている場合には、その内容などの具体的な情報を地域の行政に問い合わせることも

可能です。（「地域の動物愛護主務所管を知る」は、項目別途。）

社会貢献に積極的な獣医師との巡り会いを、地域の行政に問い合わせる以外の方法もあります。

通院に適切な範囲の動物病院を電話帳などから探し集めます。

なるべく通院顧客の少ない時間帯に、通常のペット医療と異なることなどの、かいつまんだいきさつを探し集めた病院に伝える方法です。

多数の病院の中には、さまざまな獣医療事業の方針などから、迷惑と受け止められてしまう覚悟も必要ですが、探し集めた病院におたずねしながら、お互いの信頼関係が将来的にも築けそうな獣医師さんと巡り会う方法も行われています。病院の多い都市部ではこのような方法も役立っています。

病院のすべてが、獣医師の事業者組織などに所属しているとも限りません。事業形態によっては、行政の助成金制度を利用できない変りに、定価そのものが助成金を使うよりもかえって格安か同じ程度になる場合もあります。また、協力的な定価からさらに助成金制度を使える場合もあります。

国内各地域の個別の詳しい情報は集約されていませんから、通院者がその地域の事情を事前に調べる方法がとられています。

協力的な病院の情報が知れ渡っていないだけで、社会貢献に理解を持つ獣医師や地域行政もあります。

あらかじめ通院者ご自身がお問い合わせすることは、病院を決める目安としても欠かせません。

地域に密着している行政の中には、地域ねこプランをすすめる市民に、誠実に対応する事例も見られます。

社会貢献に積極的な医師との巡り会いを求めて、地域行政主務所管へお問い合わせする方法などは、ファクトシートの別項目をご利用いただいています。

